

理想郷としての風景

ルオー・ギャラリーでは、当館が作品を所蔵するジョルジュ・ルオー Georges Rouault (1871–1958) の芸術の魅力を様々な切り口で紹介してきました。今回は、ルオーが初期から晩年まで描き続けた風景をとりあげます。

ルネサンス以降、理想化された雄大な自然のなかに古代建築や神話の人物を配した理想的風景画が発達しました。ルオーが国立美術学校在籍中に描いた《人物のいる風景》は、こうしたアカデミックな風景画の系譜に連なる作品です。ルオーはその後のアカデミズムから脱却した前衛的絵画においても、古典世界の理想郷と結びつく風景を繰り返し登場させました。それは例えば、農耕や遊牧をイメージさせる穏やかな牧歌的風景として(《風景、乗馬》)、また、自然と人間との平和的共存を表わした水浴図(《花蘇芳の側にいる水浴の女たち》、《秋》)として表現されています。

1930年代になると、ルオーは自身の信仰に基づいた宗教的風景画を数多く手がけるようになります。画面を横切る水平線とその上方に輝く天体。奥に向かう道と前景の人物群。垂直に伸びる塔や樹木。こうしたある種の定型をもつ「聖書の風景」と称される作品には、神秘的な光に包まれた雄大な風景のなかにキリストと市井の人々が描かれます。

人間の生活が脅かされる時、その不安定な世界に希望を与えるのがユートピア=理想郷の概念とされます。二度の大戦の悲劇を経験したルオーが、ことさら戦後に集中して描いた「聖書の風景」は、キリストと人間と自然とが調和した世界であり、苦悩の世界を救う愛の美しい姿といえます。救いと希望を描きだすルオーの「聖書の風景」は一種のユートピア表象なのでしょう。



ルオー・ギャラリーでは、パナソニック汐留美術館の
ルオーコレクションから、テーマごとに作品を展示しています。

理想郷としての風景

2026年1月15日(木)～3月22日(日)

No.	作品名 Titre	技法／材質 Technique and Support	サイズ (H x W cm) Size	制作年 Date
1	人物のいる風景 <i>Paysage animé</i>	木炭、パステル／紙(紙と麻布で裏打ち) Charcoal and pastel on paper lined onto paper and linen	83.8 × 121.6	1897年
2	風景、乗馬 <i>Paysage. Chevauchée</i>	グワッシュ、パステル／紙(麻布で裏打ち) Gouache and pastel on paper lined onto linen	63.0 × 75.0	1911年
3	花蘇芳の側にいる水浴の女たち <i>Baigneuses à l'arbre de Judée</i>	油彩／紙(麻布で裏打ち) Oil on paper lined onto linen	40.4 × 62.6	1925-1929年
4	秋 <i>Automne</i>	石版／紙 Lithograph on paper	43.0 × 57.0	1933年
5	秋 <i>Automne</i>	シュガー・アクアティント、アクアティント／紙 Sugar aquatint, aquatint on paper	50.3 × 65.2	1938年
6	聖書の風景 <i>Paysage biblique</i>	油彩／厚紙 Oil on cardboard	40.8 × 52.2	1929-39年
7	タペの星(聖書の風景) <i>Stella Vespertina (Paysage biblique)</i>	油彩／紙(麻布で裏打ち) Oil on paper lined onto linen	22.8 × 14.3	1935年頃
8	聖書の風景 <i>Paysage biblique</i>	油彩／厚紙 Oil on cardboard	18.1 × 22.0	制作年不詳
9	冬 人物のいる風景 <i>Hiver, Paysage animé</i>	油彩／紙(麻布で裏打ち) Oil on paper lined onto linen	14.1 × 17.0	制作年不詳
10	キリストと漁夫たち <i>Christ et pêcheurs</i>	油彩／厚紙(板で裏打ち) Oil on cardboard mounted on panel	57.8 × 74.7	1947年頃

※作者は全てジョルジュ・ルオー Georges Rouault (1871-1958)です。

※作品の所蔵先は全てパナソニック汐留美術館です。

※作品名のみ、欧文はフランス語での表記となっています。

※番号は展覧会会場の展示順序と必ずしも一致しません。